

## 鹿児島の植物⑪ 崩落で生き残る ヤマシャクヤク

植物担当 寺田仁志

ヤマシャクヤクは、鹿児島に分布する数少ない「春の妖精」の一つです。落葉樹林内で春に先駆けて芽を出し、直径が6 cm になる純白の花を咲かせ、木々が葉を広げる夏には地上部は枯れてしまいます。

4月19日、県北にある自生の南限地について驚きました。花だけを誰かがとって葉しかない株が多数ありました。(誰が一体こんなことを!) そばをよく見ると、二本爪の足跡がありました。そう、シカです。ヤマシャクヤクの植物体は毒を含むといわれていますが、花には毒がなく、軟らかいため花だけが食べられていたのです。

また、そこはミズメやサワグルミ、ミズキ、アカシデなどの落葉樹林内で、北西向きの急斜面が緩斜面に変わる谷状地にあり、林床には石がごろごろしていました。(標高800 mの常緑樹林帯なのに落葉樹林ができるなんて。) 石をよく見ると角のある平板な安山岩でした。この地域の岩盤は古い時代に流れ出した溶岩で、板状に割れ、頻繁に崩落が起こっています。斜面崩壊があつたり



落石で樹木がなぎ倒されたりするのでシイ林やタブ林などの常緑樹林が維持されず、さらに湿潤地であるため、成長の速い落葉樹林になったのでしょう。

春の妖精は夏場も乾燥しない落葉樹林内でないと生きていけません。南限地のヤマシャクヤクは安山岩の風化によって崩落の起こる北側の斜面だからこそ、落石の危険におびえながらも落葉樹の庇護の下にしたかに生きているのです。

## 鹿児島の昆虫⑫ シマゲンゴロウ

昆虫担当 中峯浩司

ゲンゴロウのなかまは、鹿児島県に57種ほどが知られおり、流線型の体形とオールのような後ろ足で泳ぐ姿は、まさに水生昆虫の代表です。中でも特に私が気に入っているのはシマゲンゴロウです。本種は北海道からトカラ列島に分布し、黒い体に黄色い線が左右2本ずつ入った体長13mmほどの中型種です。実は、このゲンゴロウには思い出があります。種子島で育った私が幼少の頃、田植えを手伝って?いると、田んぼの中をスイスイと泳ぐこの虫に目がとまりました。そして、きれいな黄色いラインに惹かれ、次々と捕まえては田んぼの隅に作った小さなプールに放して遊んだのです。小学生になってチョウの採集をはじめるとより前のことですから、今思えば私にとっては記憶に残る最も古い、虫との出会いだったのかも知れません。

あれから35年以上がたち、シマゲンゴロウも少なくなり、特にタガメやナミゲンゴ

ロウは希少種となってしまいました。

それでも、水生昆虫を探し回る楽しさに魅せられて県内各地を回るうち、記憶の片隅に残っていたシマゲンゴロウの生きた姿をついに目にすることができました。懐かしい黄色のラインは昔見たそのままです。

これまでに加世田や霧島、佐多方面で本種を見つけたことがあります。また、種子島と屋久島でも出会うことができました。水辺をとりまく厳しい状況は変わりませんが、その愛らしい姿をいつの時代の子供たちにも見てもらいたいと心から願っています。

